

里山の修復活動を通じた 環境理解教育の実践

キャンパス里山を素材とする
人間と自然の相互作用の理解と環境倫理の養成

近畿大学農学部
現代GP取組責任者
池上 甲一

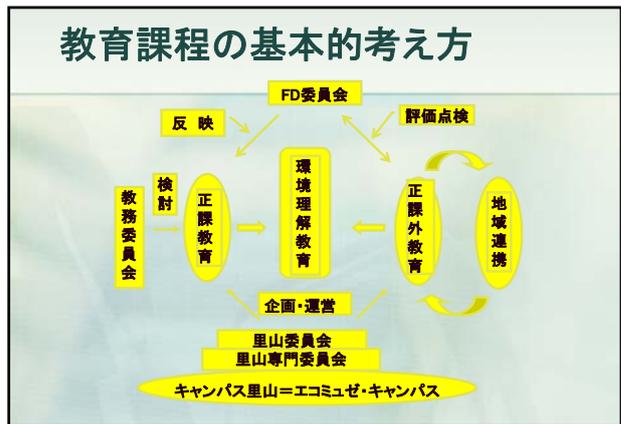
取組の目的

★環境理解教育の推進

1. 里山を素材に人間と自然とのかかわり合い(相互交渉過程)についての洞察と生命への愛情を育むこと
2. 持続可能な社会に向けた環境倫理を身体に内面化させること

取組の内容・ポイント

1. 農学教育(専門性)の基盤に備えるべき教養教育
農学の視点からの教養教育
2. 実践と経験の蓄積→経験知と科学知
3. 地域からの学びとコラボレーション
4. 学生参加型の教育:企画運営、教える側に立ってみる、そのための学生インストラクター



具体的な教育課程

<p>★正課教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎基礎ゼミ(1~2回) 以下は選択 ◎里山学演習:実習形式 ◎里山学:講義形式 ◎環境教育学 <p>+農学部基礎科目群</p>	<p>★正課外教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎里山整備・保全 ◎里山調査 班別の自主活動 ◎体験学習・里山観察会 ◎学外イベント参加
--	--

学生インストラクター

里山学のねらい

- ★二部構成
 - 外部の講師による幅広い視点からの講義
 - 内部の講師による専門的な講義
- ★企画段階への学生参画
 - 外部講師の候補、テーマ選定
- ★公開型講義
 - 多様な参加者による刺激と適度な緊張感
 - 開かれた大学(授業)

里山学演習のねらい

- 実体験による里山への興味関心の育成
 - コースの概要
 - 植物・動物標本、淡水生態圏の調査法
 - 土壌・水質分析、微生物観察
 - 間伐・林内整理
- 大学外部とのネットワークのきっかけ
 - 間伐講師

里山インストラクター制度

- 趣旨
 - 里山に関する多面的な知識・技能修得の奨励
 - 教える側に立つことで、より深い理解を得る
 - コミュニケーション能力を磨く
- 学内・学外の里山等の自然観察会、環境教育指導者またはアシスタントして活動することを支援・奨励する農学部独自の資格認定制度

正課外教育

- ★ 里山の修復・保全活動
 - 棚田の修復、溜池の外来種駆除、間伐
- ★ 里山の調査・研究活動
 - 生態調査班、学生団体による定期的調査
- ★ 里山を利用する交流・連携活動
 - 学生団体(FeeLink)による環境教育
 - 里山観察会、標本等の展示、その他
 - 小学校との共同活動など(田んぼピオトープ)
- ★ インストラクター養成講座(2年生)
 - 講師はNPO法人に依頼

教育プログラムとしての評価方法

- ★ 評価項目
 - 環境と人間のかかわり合いについての意識、意欲
 - 知力、自然への関心、創造力、多角的な見方など
- ★ 結果評価
 - 全学科1年生終了時のアンケート調査
 - 演習受講者と非受講者の比較
- ★ プロセス評価
 - 里山学演習受講者を対象
 - 演習受講前と受講後のアンケート調査

里山修復プロジェクトのめざすところ

☆フィールドミュージアムとしての整備
 オン・ザ・フィールドの教育・研究
 地域社会との連携・協働

↓ **空間が学びの場**

「人と自然のいい関係」のあり方
 持続可能な社会に向けた実践
 自然・生命との向き合い方

